

平城遷都1300年祭に沸く奈良県で、第6回目の「日中韓文化交流フォーラム」を開催。

日中韓の文化交流を軸として、各国の友好と発展に寄与することを目的に開催されている「日中韓文化交流フォーラム」が、2010年11月16日に奈良県の薬師寺で行われた。

今回のテーマは「東アジア共同体形成における文化の役割—過去・現在・未来—」。本会議とあわせて、美術展とシンポジウムなどの関連イベントが開催された。

政治的に微妙な時期だからこそ、文化交流が大きな意味を持つ。

2010年、奈良県は「平城遷都1300年祭」で賑わい、平城宮跡会場には363万人の来場者を集めた。今年で第6回目となる「日中韓文化交流フォーラム」はその一環として開催された。会場となった薬師寺はシルクロードで結ばれた三カ国の会議場としてふさわしい場所であり、日中韓三カ国からの合計19人が本会議に出席した。

冒頭、小倉和夫国際交流基金理事長が「奈良は1300年前から国際交流の場所だった。現在、日中韓においてはそれぞれに政治的な問題を抱えているが、そんな時期にこのような会議が開かれたことには大きな意味がある」とコメントした。

これを受けて、中国の劉徳有中国対外文化交流協会常務副会長が「今は、微妙で複雑な時期だが、新しい情報を入れ、新しい形を作り出し、三カ国をさらに発展させていくために、ともに努力をしていきましょう」と述べ、さらに、韓国の鄭求宗韓日文化交流会議委員長が「1300年の歴史ある奈良の地は、歴史的に中国・韓国と縁が深く、このフォーラムの創始者である故・平山都夫先生ゆかりの地でもある。このような地で、似ているが違う三国の文化について、活発な話し合いを行うことは大変意義のあることだ」と述べた。

本会議では自由討論が行われ、

- 1. 日中韓三カ国では、相互理解を一層増進するため

に文化交流が大切である

- 2. 東アジアの文化遺産を三カ国が共有することにより、世界に貢献できる
- 3. 各国の社会で多文化共生が大事になってきていることを踏まえ、それを進展させる文化交流事業を行う
- 4. インターネットの発達を新しい交流の手段ととらえ、多角的視野で新しい交流を行う。またその実践手段として

- 新しい形での共同制作、共同公演の促進
- インフラ整備(文化センターなどの充実)
- 青少年交流の増進
- デジタル技術・科学技術、文化活動、福祉、環境に結びついた文化事業の推進

などの意見が提起された。

紙上座談会では、各国民の実際の意識も浮き彫りに。

このフォーラムは三カ国の持ち回りで毎年行われてきたが、6回目となる今回でちょうど二巡目を終えることになった。フォーラムをバックアップしている公益財団法人

担当者より



AJOSCの助成なしに実現しなかったフォーラムです。

公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団事務局長 村木茂さん

中国や韓国は政府レベルのバックアップを受けながら運営しているのに対して、現状、日本は民間で対応しているため、バランスをとるのが難しい部分もありますが、今回は国際交流基金、奈良県のご協力とAJOSCの助成によって意義深いフォーラムを開催できました。

人 文化財保護・芸術研究助成財団事務局長の村木茂さんは、この6年間について次のように語る。「経済状況もかなり変わりましたし、インターネットなどの普及もありました。最近では政治的な問題も発生していますが、文化を仲立ちとした交流は深まるばかりです。このフォーラムの意義は大きく、今後新たな方向性を模索しながら進んでいくべきだと考えています」

こうしたフォーラムの活動を広く伝えるため、今回は小倉和夫国際交流基金理事長をはじめ、宮田亮平東京藝術大学学長、劉徳有中国対外文化交流協会常務副会長、鄭求宗韓日文化交流会議委員長の4氏が参加し、読売新聞紙上で紙上座談会も行われた。

座談会では、漢字や箸という三カ国に共通する文化に始まり、Kポップや韓流ブームなどサブカルチャーについても意見が広がった。韓国のケーブルテレビでは一日中、日本のドラマが放送され、中国では日本のアニメが小中学生に大きな影響を与え、日中関係が難しくなっても、『日本の漫画』が好きだと答える。そこには巷間言われているものとは異なる新しい人々の姿が現れている。

東アジア共同体という意識を深めて、文化、スポーツ、観光などによる交流を広げていくことが三カ国のみならず東アジア地域の相互発展につながるとして、座談会は締めくくられた。



2010年11月29日付の読売新聞に掲載された紙上座談会記事



薬師寺で開催された「日中韓文化交流フォーラム」



三カ国委員による貴重な意見交換の場となった